

令和6年度学校評価報告書

令和7年3月5日

北海道教育委員会教育長 様

北海道旭川農業高等学校長 印

次のとおり令和6年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

道北農業・産業人材育成の拠点校として、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成し、持続可能な地域産業、共生社会を創造する自立した個人を育成する。
(1) 学校・学習評価とリンクしたカリキュラム・マネジメントの推進（目標を評価する）
(2) アクティブラーナーを育成する授業改善と評価の充実 (カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価)
(3) 道徳教育を包括したキャリア教育の充実（教科横断した基礎的・汎用的能力の育成）
(4) 生徒の心に火を灯す生徒指導の充実（コーチング力） (いじめの未然防止・早期発見・早期対応)
(5) 地域・産業界と連携し、開かれた教育課程 (連携の質を高め実践的・体験的な学習活動の充実)
(6) グローカルな視点で教育のデジタル化を推進 (国際化、ICT、スマート農業への対応)
(7) 働き方改革の推進による教育の質の向上（業務の平準化・効率化、デジタル化、適切な部活動）
(8) リスクマネジメントの観点に立った危機管理体制 (感染症対策、健康・安全確保、施設・設備安全点検、個人情報管理、生徒指導対応)

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	- 主体的・対話的な深い学びの実現に向けて計画的に授業を進め、補充授業等を行い時数の確保を含め教科の目標を達成することができた。 - 教科間や学科間の連携を充実させ、教科・科目等横断的な授業の実践に努めた。 - 新学習指導要領に基づいた観点別評価の定着に努めた。	- 実社会に生きる探究的な学びの実践については、地域課題を捉えたプロジェクト活動が特に高く評価されている。 - ICTを活用した授業の充実について、教職員が研修を重ね効果的な活用を実現させている。
改善方策	- 観点別評価を定着させるために、シラバスでの説明他、評価の検証、改善、周知の機会を設定する。 - 各科で単元配列表を作成し、課題解決型学習を基盤にして、教科・科目等横断的な授業を充実・発展させる。	
生徒指導	- 指導全般について、共通理解を深め、統一した指導を継続する必要がある。 - 玄関指導や身だしなみ指導等基本的生活習慣の定着についてを継続的に実施し、改善に努めた。 - 人権に則った校則の見直しとして、頭髮規定を始め制服等の検証・検討を進める。	「十分」との評価が約60%であり、「おおむね良好」と合わせると約90%となっているが、規則の改善が必要との意見も見られた。 - 身だしなみ指導では、教師間、クラス間の指導にバラツキが見られるとの意見がある。
改善方策	- 指導の目的を明確化するとともに、その意義を的確に伝えられるよう生徒・保護者・教員の連携を密接にするよう努める。 - 指導法全般においては、教員個々の温度差のない指導を徹底する。	
進路指導	- 進路に関する行事については、概ね実施でき、専門教育を活かした生徒の進路実現は達成することができた。 - 外部機関の活用など、充実した企画で生徒を十分にサポートできた。	- 進路指導に係る評価は高いが、より実践的な指導も求められている。 - 見学実習やインターンシップから進路実現への流れができており、職業観の醸成に成果が表れている。
改善方策	- 保護者・生徒への情報提供を継続し、指導の理解促進を図る。 - 関係機関、上級学校、事業所等との連携を一層強化し、ミスマッチのない進路実現を目指す。	
公表方法	- ホームページで公表する。 - P T A総会等で公表する。	

3 添付資料

- (1) 自己評価書
- (2) 学校関係者評価書